

教科等研究会（小学校体育部会）

令和3年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

『児童一人ひとりがかかわり合い、運動の楽しさや喜びを味わう体育学習』

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6月7日	46人	広安小	7月1日	甲佐小	安永智一	10月1日	嘉島西小	前田祐輔	1月27日	高木小	湯本順章

※第3回と第4回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマ設定の理由

小学校は、令和2年度より新学習指導要領が完全実施となった。その中で小学校の体育は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指している。この目標を達成するために、知識や技能を身に付けることを中心とした学習だけでなく、仲間とかかわり合いながら、児童一人ひとりが運動の楽しさに触れ、生き生きと学習に取り組む体育学習を目指して本研究テーマを設定した。また、児童の実態を把握し、運動が苦手な児童の不安に寄り添いながら、すべての児童が楽しく参加したり、関わり合いを活発にしたりする手立てを中心に研究を進めることにした。

② 研究の実際（イ・ウは中止）

ア 研究授業 6年「バディスイミング」（水泳運動） 授業者 安永智一 教諭（甲佐小学校）

本学級は、体を動かすことが好きな児童が多いが、水泳に対して苦手意識を持っている児童も多い。また、中学校入学を前にクロールや平泳ぎの知識及び技能の習得も必要である。また、運動の行い方を理解させながら活動時間の確保を図る必要がある。そこで、「水泳の心得を守り、水泳運動の行い方を理解したり、自分の課題を解決するために、適切な場を選択し、仲間と協力したりしながら自分の設定した目標に向けて粘り強く取り組む姿」を単元のゴールの姿と定め、バディ同士による学び合いを中心に学習を進めた。

イ 研究授業 6年「ボールディングバレー」（ボール運動） 授業者 前田祐輔 教諭（嘉島西小学校）

ウ 研究授業 2年「マットランドで遊びまわろう」（器械・器具を使つての運動遊び）

授業者 湯本順章 教諭（高木小学校）

(2) 成果と課題

① 成果

- 例年2学期に2回、3学期に1回の授業研究会を行っていたが、本年度は1学期に水泳の授業を行った。各学校において個人差に対応した水泳の授業にどのように取り組むか課題になっている。1学期に水泳の授業を提案したことで、各学校に水泳指導のあり方について考えるきっかけを与えることができた。
- 水泳指導において、バディを効果的に活用することによって、苦手な児童が友達や先生に学ぶことができるシステムが提案できた。「一斉指導だけでは解決できない課題が、児童同士の学び合いで解決されていくと思う。」という参観者の感想もあった。
- 水泳指導において、バディが有効に機能するためには、ペアリングの工夫や目標の共有、アドバイスの仕方などの学び方が大切である。

② 課題

- コロナ禍により、2回の研究授業が中止となり、事前研究会の回数や参加人数、時間を大幅に短縮して行った。今後、ウィズコロナの研究会のあり方を考えていかなければならない。
- 水泳指導において、バディ同士のより深い学びに向かうために、資料活用の仕方を考える必要がある。

4 実践事例 6年「バディスイミング」(水泳運動) 授業者 安永智一 教諭(甲佐小学校)

(1) 授業の概要

【自評】

- 学級の実態として、25mを泳げる児童が32名中10名もいなかった。少しでも泳げるようになってほしいが、これまでのような一斉授業ではうまくいかないと思った。そこで、単元計画を前半5時間、後半5時間に分けて、児童が主体的に学習を進める形態を考えた。前半を終えて、うまく学習が進まないバディが2組あったので組み換えを行った。後半は、レベルアップタイムとスキルアップタイムを設定し、授業の流れを同じにした。見学の児童の仕事としてタイムキーパー等を与えている。また、朝自習の時間を活用して学習計画を立てている。バディ同士でうまくいかなかった時に教師が指導をしている。

【質疑応答等】

Q1：互いの教え合いに変化はあったか。

A：2時間目に声かけの言葉を提示した。それからお互いの声かけが増えた。

Q2：ボードに動きのポイントが示され、付箋がたくさん貼られていたが。

A：5時間目終了後まで、学習カードにポイントを書かせて貯めていた。それを付箋に書かせてボードに貼らせた。教師が分類して、いつも見ることができるよう教室に置いている。

Q3：安全面において指導者同士で役割分担はあるのか。

A：担任は、バディの様子を見る。支援学級の児童を見る先生と25mのコースを見る先生がいる。

Q4：バディがうまくいかなかった原因は何か。

A：「教えないより、自分で泳ぎたい。」「教えてもらえない。」という声があったので、話し合いをしてバディの入れ替えを行い、うまく機能するようになった。

【グループ協議】

○ 「バディ同士による学び合い」について

- ・ 教師の肯定的な声かけ(教師によるモデリング)が自然になされていた。
- ・ 泳ぎが上手な子どもではなく、教えることが上手な子どもと苦手な子どもをバディにするとよい。
- ・ 単元が進むにつれて、教え合う内容が少なくなっていくのではないかと。教師が教える場面とバディで教え合う場面を交互に入れてもいいのではないだろうか。

○ 「自己の課題を分析し、達成できそうな課題の設定」について

- ・ 課題の設定は、教師の具体的な声かけが必要。スキルアップタイムの前に課題を設定・確認することでレベルアップタイム、スキルアップタイムのめりはりが出てくるのではないかと。
- ・ できたことやできなかったことの共有が大切である。

○ 「ICTの活用」について

- ・ 毎時間でなくても、ねらいに即して活用することが大事である。
- ・ デジタルとアナログを一緒に組み合わせるとよい。デジタルは、長期保存できたり、すぐ振り返りたりできるよさがある。アナログは、プールサイドに準備しておくといつでも見れる。

【助言・まとめ】

- 私たちは、授業を行う前に学習指導要領解説をよく読まなければならない。読むことで、学習内容の全体像をつかんだり、系統表等から見通しを持ったりすることができる。

今日の授業は、先生の肯定的な声かけが多く聞かれた。児童をよく見て評価している。肯定的な声かけは、先生との信頼関係をつくる。まだ、新学期がスタートして3カ月しかたっていないが、日頃の学級経営の成果がよく出ていた。バディ同士の学び合いについては、児童同士が、何ができて何ができていないのかわかっていなくてはできない。そのために、掲示物は見たい時に見たい場所で、知りたい時に知りたい場所でいつも見ることができるようしておかなければならない。めあてを書いたり、ポイントやコツを確認したり、動きの確認をしたりする場所をつくり、掲示物を効果的に活用するとよい。児童の見学については、座っているだけでは授業に参加しているとは言えない。今日は、計時をする姿が見られたが、しっかり役目を与えて授業に参加させなければならない。学級には、めあての質が高い子どももいれば、泳ぐことが苦手な子どももいる。苦手な子どもが少しでも「泳げた。」と思わせるように教師は、その場に行って深く関わらなければならない。今日の授業には、体育の授業だけでなく普段の授業に生かせるものがたくさんあった。明日からの授業にぜひ生かしていただきたい。

(2) 学習構想案：単元計画及び評価基準（全11時間取り扱い）

運動の特性	<p>水泳は、浮く、泳ぐ、呼吸するなどの技能によって成立している運動であり、各種泳法で自己のめざす距離や速さの達成をねらいとして、自己の記録を向上させたり、仲間と競争したりするところに喜びを味わうことのできる運動である。</p> <p>また、水に浮いて腕や足を使って水中を移動する運動であるため、陸上の運動とは動作が異なること、水中で体のバランスを保つ必要があることなど、他の運動には見られない特徴がある。</p> <p>さらに、水泳はこれらの技能を身につけることにより、水の危険から自他の生命を守ることができ、安全の確保に貢献することが期待できる運動である。</p>				単元の目標	<p>(1) クロールや平泳ぎでは、手や足の動きに呼吸を合わせて、できるだけ少ないストロークの回数で続けて長く泳ぐことができるようにする。</p> <p>(2) 自己の課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫し、自己や仲間の課題に適した練習方法を伝え合うことができるようにする。</p> <p>(3) 積極的に運動に取り組み、約束を守って助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたりしながら、安全に気を配って行動することができるようにする。</p>						
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度						
評価基準	<p>① クロールや平泳ぎの行い方について話をしたり、その動きを意識して活動したりしている。</p> <p>② 手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く泳ぐことができる。</p> <p>③ できるだけ少ないストロークの回数で決められた距離を泳ぐことができる。</p>		<p>① 自分の課題に応じた練習の場や練習の方法を選んでいる。</p> <p>② 記録への挑戦の仕方を考え、自分に合った目標を設定している。</p> <p>③ 自分や仲間の課題に適した練習方法について伝えている。</p>			<p>① 課題の解決や記録の向上に向けて積極的に運動に取り組もうとしている。</p> <p>② 決められた約束守って、仲間と助け合いながら運動しようとしている。</p> <p>③ 仲間の考えや取組を認めながら活動を進めようとしている。</p> <p>④ 場の安全に気を付けている。</p>						
	時間	1	2	3	4	5	6	7(本時)	8	9	10	11
	オリエンテーション	基本的な動きの習得と課題解決の行い方を学ぶ				自分や仲間の力を伸ばしたり、課題を解決したりするために、場や練習方法を工夫して積極的に活動に取り組む				タケノコ学級水泳記録会		
10	○ 学習のねらいや進め方、心得を知る	○ 準備運動、あいさつ ○ スイッチオンタイム ○ 本時のめあてと流れを確認する。										
20	○ 準備運動をする	【クロール】リズムよく足を動かそう	【クロール】水をキャッチしよう	【クロール】手の動きに合わせて呼吸をしよう	【平泳ぎ】キックの勢いを利用して、け伸びの姿勢をつくらう	レベルアップタイム(得意なことを伸ばす) 力を伸ばすために場を選択したり、練習方法を工夫したりして活動する			タケノコ学級水泳記録会をしよう！			
30	○ 水慣れの運動をする	【平泳ぎ】手の動きをやってみよう	【平泳ぎ】手の動きに合わせて呼吸をしよう	【平泳ぎ】足の内側で水をはさもう	スキルアップタイム(課題を克服する) 課題を克服するために場を選択したり、練習方法を工夫したりして活動する			※ 自分の宣言した記録に向かって、挑戦する				
40	○ スイミングタイム 今の自分の泳力と課題を知る	○ 本時のふり回り ○ 今日のキラリさん発表				○ チャレンジタイム ○ 本時のふり回り ○ 今日のキラリさん発表			単元のふり回り			
40	○ 学習の見通しをもつ											
準備物	○学習カード ○単元計画											
評価計画	知技		①	①	②	②				③	③	②
	思判表						①	①	③	②		
	人間性	④	②				①		③			①

本時の学習（ 7/11 ）

(1) 目標 自分の目標に応じた場や練習方法を選択して、自分の立てた目標に向かって活動を進めることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容、方法等)	備考
導入	10分	<p>1 あいさつ、準備運動、スイッチオンタイム</p> <p>2 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>【めあて】バディと協力して、自分に合った練習方法で記録を伸ばそう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 準備運動はプールサイド全体に広がって行う。 ○ 簡単な単元計画を掲示し、児童が本時の見通しをもつことができるようにする。 ○ できていることや努力していることを積極的に認めたり、褒めたりすることで、自分の動きに自信が持てるようにする。 ○ 記録の伸ばし方には、速さや距離、ストローク数があることを理解させ、自分に合った目標をもつことができるようにする。 	<p>単元計画表</p> <p>ホワイトボード</p>
展開	30分	<p>3 レベルアップタイム（できることをさらに伸ばす）</p> <p>(1) バディと個人のめあてと練習の行い方について確認をする。</p> <p>(2) 個人のめあてに向かって練習する。</p> <p>◇ この前は25mを15回のストロークで行くことができたから、今日は14回を目指そう。</p> <p>◇ タイムが32秒から30秒になるように手を意識して泳いでみようかな。</p> <p>◇ この前は、2回ストロークができたから、今日は3回を目指してやってみよう。</p> <p>4 スキルアップタイム（課題を克服する）</p> <p>(1) バディと個人のめあてと練習の行い方について確認をする。</p> <p>(2) 個人のめあてに向かって課題克服のために練習を行う。</p> <p>◇ 平泳ぎの足の動きが苦手だから、今日は頑張るぞ。</p> <p>◇ クロールの時に伸ばしている手が沈むから、道具を使いながらやってみようかな。</p> <p>◇ 平泳ぎが苦手だから、け伸びから一回だけストロークができるように頑張る。</p> <p>【期待される学びの姿】自分自身やペアの友だちのよさを伸ばすために互いに協力したり、課題解決のために主体的に練習の方法を考えたりして行動する姿</p> <p>5 チャレンジタイム</p> <p>練習した内容から目標をバディに伝えて、泳ぐ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の練習の場を可視化するために、ホワイトボードにネームプレートを貼る。 ○ 場は、25mプールを縦に使用することができるように区分けする。 ○ 上達が顕著に見られた児童がいた場合は、紹介することで、運動への意欲の向上や技能の定着を図る。 ○ 場は、25mプールを縦と横に使用するように区分けする。 ○ スモールステップで目標を持たせ、成功体験をできるだけ多く重ねることができるように、課題の持たせ方の工夫を行う。 ○ 小プールを使用したり、陸上での練習を行いながら、できる楽しさを体験したりできるようにする。 <p>〈評価基準〉（思考・判断・表現） B：自分の目標に応じた練習の場や練習方法を選択し、目標達成のために、活動を進めている。 （観察・学習カード）</p> <p>〈B基準に達しない児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人のめあての目標を見直し、少しずつできるような課題設定を再度行う。 	<p>ホワイトボード</p> <p>タブレット</p> <p>補助具 タブレット</p>
終末	5分	<p>6 学習のまとめを行う。</p> <p>(1) 口頭で、本時のふり返しを行う。</p> <p>(2) キラリさん発表を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のふり返しはプールサイドでは口頭で行い、教室に帰ってから水泳カードに記述するようにする。 ○ キラリさん発表を行うことで、一人一人のよさに目を向け、次時への意欲付けを行う。 	